

# 市政に 対する 一般質問

## 〓〓〓8名の議員が質問〓〓〓

9月定例会の一般質問は、9月18日及び19日の2日間にわたり行われました。なお、質問順は一括質問一括答弁方式と一問一答方式に分けず、抽選順となっております。質問の要旨は次のとおりです。

**菅野 恭子** ピロリ菌検査等の胃がんリスク検診導入について他（一問一答方式）

**山田 裕一** 決算の総括と予算編成について（一問一答方式）

**伊藤 勝美** 公用車について他（一問一答方式）

**佐久間儀郎** 各種審議会等の改善について他（一括質問一括答弁）

**澁谷 政義** 都市計画道路及び大雨等の防災計画について（一問一答方式）

**水落 孝子** 認知症予防事業について他（一問一答方式）

**大野 栄光** 10年目を迎える風間市政について（一問一答方式）

**四竈 英夫** コミュニティFM放送局の開設について他（一括質問一括答弁）

### ピロリ菌検査等の胃がんリスク 検診導入について

菅野 恭子



【質問】2005年統計

では日本人の胃がん罹患数は他のがんより非常に多く、男性では第一位、女性では第二位であり、死亡数は年約5万人が数十年続いている。1982年に胃粘膜からピロリ菌（ヘリコバクターピロリ菌）が発見されてから研究が進み、胃がんの95%以上はピロリ菌の感染で胃粘膜萎縮により発生し、又除菌する事でその発生を抑制できる事が明らかになった。

ある推計では男女とも30代までに除菌すれば、ほぼ100%、40代で男性93%、女性98%、50代では男性76%、女性92%を予防できるとしている。現在、国内のピロリ菌感染者数は約3千500万人、

約80%が50歳以上とされている。この状況から、胃がん予防と早期発見にもつなげる「ピロリ菌検診」、胃粘膜萎縮程度を調べる「ペプシノゲン検診」を実施する自治体が増えている。両検診を合わせてABC検診と呼び、検査は採血で行われ、結果をAからDに4分類し、胃がんリスクを把握し除菌や定期的な精密検査を推奨し、胃がん予防を行うものである。

【答弁】【市長】当検診でBCDと判断されると定期的に内視鏡検査をする事になるがその体制を整える必要がある。実施自治体の実施方法・効果等は参考にしながら、現在、国の方針はX線法を推奨している。検診導

入は考えていない。【質問】市長は当検診を有効と考えるか。【答弁】【市長】県内で当検診を実施する医療機関がない。現時点ではX線法になる。【子ども医療費助成について】【質問】この件について複数回質問してきたが、現在通院が小学6年生まで入院が中学3年生までに拡大された。昨今の諸状況から本市への企業進出、事業拡大による雇用増等が想定され、人の移動も考えられる。定住促進の環境整備に子育て支援充実は不可欠だ。近隣9市町中6市町が入通院とも中学3年生まで助成している。本市も通院助成を中学3年生までとすべきでないか。【答弁】【市長】今年度の状況を踏まえ判断したい。【その他の質問】○中学3年生へのインフルエンザ予防接種助成について